ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第61回放送の概要（2013年3月23日放送）

パーソナリティ
さくら（安本久美子）
タロウ（佃　由晃）
なかちゃん（中嶋邦弘）

コアラさんの地域瓦版
アコちゃん（三木文子）

ミキサー
門ちゃん（門田成延）
一ノ瀬悟

相談役
わだかん（和田幹司）

会計
小山俊則

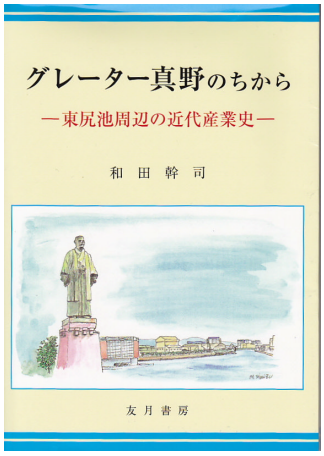
（ＣＭ）急性リンパ腺白血病でした。治療が続いてしんどくてどうしようもない時の輸血、すごく体が暖まって楽になれたんです。献血の約 85%は病気の治療に毎日使われています。感謝の気持ち忘れません。献血ってそうなんだ。日本赤十字社。
　どうしても生きて帰らなければならなかった私が、急性骨髄性白血病で入院した時、妻は妊娠 7 カ月、二人目の子供を身籠っていたんです。献血の約 85%は病気の治療に毎日使われています。献血ありがとう。献血ってそうなんだ。日本赤十字社。

（ＣＭ）エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正 12 年に誕生。
今年で創業 90 周年迎えました。これもひとえに皆様のお陰と心より感謝申し上げます。この先も、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供し続けたいと考えます。どうぞよろしくお願い致します。本日はエキストラ珈琲様（電話 078-671-0135）のご協力を頂きました。

１．オープニング

本日はなかちゃん、あこちゃんがお休みのため、さくら、タロウの他わだかんさんにもトークに加わってもらいます。

２．ゲストコーナ（１）：真野地区まちづくり協議会
事務局次長　清水光久さん



真野地区は真野小学校区という意味です。清水さんは昭和 15 年生まれで 4 月で 73 歳です。苅藻中学、湊川高校そして三菱重工に就職した。中高校時代は美術部の部長をしていた。わだかんさんが出版した「グレーター―真野のちから」の表紙と挿絵を描いた。三ツ星ベルトのベルトの挿絵は昔の機械が描かれている。絵はその人の性格がでるもので、清水さんは女性を美人に描くし、風景はきれいに描いている。長田区の日展入選者二人のうち、武田圭右さんは風景画が専門で、真野水彩教室で講師をされている。
人物画は清水さんも他の生徒も苦手らしい。高校時代は失恋の多い恋多き男であった。真野に勉強に来る孫のような大学生を見ていると、真剣に恋をしないのを歯がゆく感じ、命をかけて恋をしなさいと言っている。

真野は工場と住宅の混在地域で、尼崎などと同様に喘息患者が多数発生し、真野小学校では生徒の 4 割が喘息症状に罹っていた。そのような状況下で**毛利芳蔵**さんが公害をなくす運動を始めたのがまちづくりの原点である。その後子供の健全育成、公園を作る、緑を増やす、寝たきり老人の入浴サービス、給食サービスなどを 30 年以上前から始めた。毛利さんは徹底的に取り組むのでお年寄りは神様のように慕っていた。毛利さんが指示すると皆が必死に動いた。町ぐるみでまちを変えてきた。その後、代替わりし、今は５代目になっているが、毛利さんの方針と違った方向に進むことはなかった。いかに毛利さんの方針が良かったかがわかる。毛利さんは喫茶店でお年寄りや主婦の方など周囲の声をよく聞いて、聞き流さず丁寧に声を集め、考えて実行に移していた。これが先見性につながった。毛利さんは運送会社を経営していて、息子 3 人が会社を継いだので、自治会の連合会長、民生委員のトップになり、名誉職ではなく自ら動き回り行動したので皆から尊敬された。人が好きで、困っている人がいるとなんとかしたいと思う人であった。

公害をなくす運動では、公害工場を追いつめると対立し、窮鼠猫を噛むということになるので、代替地をあっせんするなどの逃げ道を作る方法をとった。出て行くのに金のない企業には、県や市斡旋の公害防止機器をつけるよう企業に便宜を図った。三ツ星ベルトやミヨシ油脂ともかなりやりあったが、他地域の公害反対運動と違い毛利さんは人気があり、三ツ星ベルトなどは今も地域に還元してくれている。このように闘ったが企業とも友達になった。

2006 年の暴力団追放運動は、真野地区とその北側に位置するわだかんさんの地域住民が連帯して取り組んだ。公害反対運動以降、**「自分たちのまちは自分たちで守り、自分たちのまちは自分たちで作る」**というスローガン、意識が浸透していたので、暴力団の車が来たり喫茶店でたむろすると、まちの雰囲気がころっと変わってしまい、放置すると 1 年後は大変なことになると考えた。警察からも決起集会、裁判など協力要請があり、第 1 回決起集会には 600 人の住民が参加した。多くの住民が参加したことで自信がつき、最終的に勝利したのはリーダー層の力ではなく、全住民が立ち上がったためである。このような住民の資質は、毛利さんが公害追放運動をやってきた中で鍛えられたものである。また、その前の阪神大震災の住民の取り組みの中でも形成された。地震発生時火災が発生したが、住民の力で延焼を食い止めたことから地域全体が焼失することはなかった。運が良かったのは 2700 戸のうち火災発生は 1 か所で、住民のバケツリレーで鎮火出来た。住民は傍観者意識がなかった。毛利さんは震災前に亡くなったが、後継者が毛利さんのやり方を受け継いだ事が良かった。

３．ミュージック：スクラム組んで

この曲は暴力団追放運動の中で作られた曲で、原詞はわだかんさん、作曲はゆうさんです。この曲はフォーク調で普段に歌っても楽しいので、敬老会や 1.17 追悼行事などでも歌っている。

『スクラム組んで』　原詞：わだかん　作曲：ゆう

♪ 子どもの頃に　遊んだ路地裏
互いに声かけ　ともに働く
ご近所さん　汗流す一日
今日もスクラム　組んで歩いてゆこう
仲間が君を　呼んでいる

(※)梅ヶ香・東尻池・浜添・苅藻　未来を語ろう
明るい真野のまち

♪ 仕事が済めば　今日も夜回り
拍子木鳴らして　暮らしを守る
火の用心　あしたもいい日で
共にスクラム　組んで歩いてゆこう
仲間が町を　守っている

(※)梅ヶ香・東尻池・浜添・苅藻　未来を語ろう
明るい真野のまち

♪ 休みの日には　さらににぎやか
笑顔があふれる　いこいの広場
ごくろうさん　つれもって元気で
みんなでスクラム　組んで歩いてゆこう
同志(なかま)がここで　待っている

(※)繰り返し3回
「明るい真野のまち」くりかえし

４．ゲストコーナ（２）

真野がまちづくりの見本と言われる理由について、毛利さんのリーダーシップと先見性があるが、外部からの評価がいいのは、全国の専門家、建築家のネットワークがよくて宣伝してくれている面もある。しかし世代交代がうまくいかない、高齢化などがあり順風満帆ではない。1980 年に神戸市長とまちづくり協定を結び 20 年で地域を改造しようというのは全国で初めてで、これが高く評価されている。まちづくり条例は 2 年後に出来た。従って条例は真野のまちづくり協定を土台にしたものである。この時は毛利さんからコンサルタントの宮西悠司さんに委託して出来あがったものである。行政は住民の意思を無視して大型の都市計画は出来ないので、震災で 100 くらいのまちづくり協議会が出来た。しかし震災が落ち着くと殆どの協議会がなくなった。しかし真野の場合はコンサルタントがいたため、今も継続してまちづくりの活動を行っている。周囲から批判されたのは老人の多い疲弊していく町に、神戸市が大金を投入するのはおかしい、真野は神戸市の広告塔と言われ批判された。しかし一番大事なのは真野の場合、自治会だけでなく、婦人会、老人会など全ての団体が心一つになって行ったもので、他の団体でもそのようにして市長にお願すればまちづくり協定は出来るものである。

阪神大震災では、2000 所帯（4000 人）の真野は、家はとりあえず残った。支援に入ってきた専門家は、コミュニティの崩壊を避けるため、「被災者をまちから出すな」と言った。まちは建物とそこに住んでいる人間関係、組織が一体となって成り立つものである。真野では公園に 105 戸の仮設住宅を作り、地域内に恒久住宅を作り、人、組織を守り、まちを残す努力をした。日本は世界の中で最も安全安心なまちと思うが、それは武器を持っている者がいないこと、交番が残っている事、そして町内会（自治会）が全住民を掌握していることである。町内会は全国的には加入者がどんどん減ってきて問題になっている。町内会がしっかりしていると安全弁になる。平成 25 年度は町内会をどのようにしっかりさせるかを真剣に考えたい。他の地域では、自治会に入っているのは 1 戸建てが多く、マンションの住民が自治会に入ることは少ないのが現状である。

わだかんさんの自治会は暴力団追放運動でまとまったので、細々ながら活動が出来るようになっている。若い人は自治会に入ってどういうメリットあるのかと言う。真野では空き地になると、数年前に 1 戸 4 千万円ほどする 11 戸の分譲住宅を建て、今も次の１２戸の分譲住宅を建設中である。完成するとようこそ真野へというイベントを開催している。入居者全員を招待し、まちの紹介と要望を聞いたりするので、まちに溶け込みやすくなっている。転居してすぐにＰＴＡの会長になって人もいる。

立命館大学の乾ゼミは、学生を毎年数名真野でまちづくりの勉強をさせている。きっかけは延藤安弘さんの愛弟子の乾先生が、震災時京都の設計事務所の社員として支援にはいっていた。1 年ほどして立命館の助教授になりすぐ教授になった。その先生のゼミ生を、京都 3 箇所と真野にゼミ生を 10 数年送りこんでいる。学生は真野に来ると、日ごろ接することはない住民と色んな場で話をするので、人慣れし、その経験は就職活動で生かされていると思う。中には人材派遣会社のリーダーとして活躍している者もいる。わざわざ 1 時間以上かけて真野に来る学生は優秀である。今年来た学生 5 人のうち 4 人は女性で、男子学生は 200 人の中から学部長表彰を受けている。女子学生の 1 人は立命館美人 3 人に入っている。真野にとって学生は若返りになるし、餅つきの時は 30 人程の学生が来てくれるので 300Kg 程の餅をつくのにはなくてはならない存在である。またしっかり勉強しているので、真野での研究結果をフィードバックしてもらい、老人の問題、若い人の問題などの新たなテーマに反映している。

真野の今後の課題について、昨年のゼミ生がまとめた。100 人 200 人がまちづくりに頑張っているが、いつまでもその人に頼っていると世代交代が出来ない。そこで何らかの活動に参加した人が何人いるかを調べたところ、暴力団追放決起集会の参加者、まちづくり会館のカンパ者、自治会・婦人会活動参加者などをチェックした結果、1 つでも二つでも参加した人は 1000 人いた。実際の成人は 3000 人程のため 3 分の 1 の人がまちづくりに関わっていることがわかった。現在濃密に活動している人は 80 人である。80 人に頼っていると世代交代は出来ないので、これからの 1 年は 1000 人に当たってアンケート調査をしたいと考えている。アンケートは目的ではなく手段で、対話をしながらいい人を見つけていきたい。同時に皆が持っている悩みを拾い上げ運動に繋げて行きたい。1 年がかりで取り組み、新しい人が

見つつかると思っている。専門家の先生はこの取り組みに興味を示し、乾先生は助成金の申請をしている。その理由は、真野まちづくりは終焉することはあってはならない。真野は出来るということを証明しなければ、真野のように頑張ってもいずれなくなるといことはあってはならないこと、と先生は考えられたからである。アンケートを作成する段階から専門家、学生を入れて検討する。そして 2000 所帯の思いを把握したい。それが再生の道と考えている。これまでの学生の調査では、まちづくりをやっている事さえ知らない住民がいるのが現状であるからである。

毛利芳蔵さん

真野まちづくり会館（2011 年 4 月 3 日竣工）

暴力団追放はっぴ（乾ゼミ生）

真野ふれあい寒餅つき（乾ゼミ生）

まちうたフェスタで「スクラム組んで」歌う

地域住民が多数参加する寒餅つき

５．地域瓦版

3 月 30 日（土）新長田駅前鉄人広場で 11 時～17 時に第 3 回長田区高校生鉄人化まつりが開催されます。第 1 回の時に兵庫高校生の提案が採用され、長田区内の高校の協力を得て始まったものです。

神戸税関東のビル KIITO ホールで、加川広重さんの巨大絵画「雪に包まれる被災地」が展示されています。既に開催中で 3 月 31 日まで、11 時～19 時までです。絵の大きさは高さ 5，4m幅は 16.4mです。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com